

桃 初の1億円超え

～もも生産協議会役員会で報告～

令和2年産桃の販売額が1億5212万円（前年対比158.6%）となり、初めて1億円を突破しました。在庫数量が過去最高の3万5201箱（前年対比111.8%）となったことや、主力品種の「川中島白桃」などの販売単価が過去最高となったことが、好結果につながりました。

12月14日に本店で開いたもも生産協議会の役員会で販売額を報告しました。2年産は、天候が良好だったことから大玉果が多く在庫数量が伸び、輸出の要請もあり順調な販売となりました。また、新型コロナウイルスの影響で家庭内需要が高まり、中・小玉品種の引き合いが強くなったことで高値基調の販売となったことを報告しました。

同生産協議会の倉内信一会長は「販売額が初めて1億円を突破したことで、目標の一つを達成することができた。心から、桃を栽培してきてよかったと感じている。今後はさらに販売額向上を目指すため、消費者へのPR活動や生産者を増やす取り組みを進めていきたい」と話しました。



あいさつをする倉内会長



防除暦などの説明を聞く会員（みなみ地区）



防除暦の変更内容などを聞く共防長・防除部長（黒石地区）

令和3年の農薬を確認

～りんご病害虫防除暦説明会～

みなみ地区りんご共同防除連絡協議会（山内誠会長）は12月16日、本店で「令和3年用りんご病害虫防除暦説明会」を開きました。同協議会の会員約100人が出席し、令和3年用の薬剤を確認しました。

説明会では、平賀基幹グリーンセンターの営農指導員が令和2年の気象状況や病害虫の発生、令和3年用りんご病害虫防除暦について説明。「りんご病害虫防除暦には、新しく採用された薬剤や、使用方法について記載されている。参考にして、適切な薬剤防除を行ってほしい」と呼び掛けました。

黒石地区りんご共同防除連絡協議会（東良一会長）は12月23日、黒石基幹支店で共防長防除部長会議を行い、黒石基幹グリーンセンターの指導員が、令和2年の病害虫発生状況や令和3年防除暦の変更内容について説明しました。